



参加者は午前 6 名、午後 5 名です。

### ●作業内容

#### 1, うるし谷入り口に門扉の取り付け

入り口の金網フェンス設置に合わせて、T さんが親子門扉を溶接して作ってくれました。

深さ約 400mm 位の穴を二カ所掘り、門扉の支柱を埋め込みました。門扉を付けると、見切りが付き、とても入り口らしくなりました。後日、支柱元にコンクリートを流し込むと、完成になります。

#### 2, デッキ天板固定と、階段の設置

◆デッキサイズは W2,500×D2,500×H1,100mm です。

四つの 20L ペール缶にコンクリートを詰めた土台は、げんきの森の駐車場に張り出してあったデッキの土台です。

◆軸組みの丸太、柱は、かつらぎ町の古民家解体時にもらってきたものです。

◆デッキ板は、2024 年 12 月 15 日に伐採した、切り口約 600mm 位のクスノキを T さん、M さんが手作りのロゴソールで、現地で挽いてくれた物です。既に防腐処理された板を 1 枚ずつ高さを調整しながら、ビスで固定しました。階段は側桁に切り込みを入れ、踏み板を差し込み、3 段の階段を造り、デッキに取り付けました。

土台、軸組材、デッキ板全て有効利用した材料で作れた事は、特別な達成感があり、嬉しい限りです。残る作業は、筋交いと塗装だけとなりました。

#### 3, 草刈り

うるし谷の必須作業、草刈りをしました。

気温上昇と度重なる雨の影響で、草は願いに反してグングン伸びていきます。いつものことですが、今日も草刈り後の爽快感と満足感をたっぷり味わう事となりました。

豊富な作業メニュー、皆様お疲れさまでした。



参加人数は 10 名 9 時 45 分から作業開始

先月焼いた窯から木炭を出してカットして袋に 10 キロずつ詰める作業をします。今日の出荷先は高野山なので大体 25 センチにカットして、袋詰めします。

25 センチ以下の炭はハギハラコーヒーに出荷するので、別の袋に詰めます。この作業が今日は午前中に終わらず昼食を挟んで 13:30 頃までかかりました。炭は 260 キロ出来ました。

袋詰めが終わると窯に炭材を詰める作業にかかります。炭材を詰めるのも順番がありなかなか難しそうです。最後に窯の入口を塞いで作業終了は 15:00 頃になりました。



活動日…令和7年5月18日(日)9時分30〜15時

天気…曇り

倶楽部員…42人

令和7年5月作業日誌



## 里山整備 宮芝 真弓

本日は少数精鋭(正しくは、精鋭 3 名+見習い 1 名)での里山整備作業を行いました。

炭小屋近く、谷沿いの斜面のヒノキを 2 本、伐採しました。当初は 1 本の予定だったのですが、先輩方の手際が良く、気が付けば 2 本の作業が終わっていました！

見習いの私は、とにかく『何かしなくては！』とちよろちよろ動いてみたのですが、先輩方に『そこは危ないよ』と度々言われ、何もできず。そこで、一旦は作業を見ることに集中。すると、作業の手順や、機械(林内作業車)の動きで次に何をしようとしているかが少し分かるようになってきて、『危なくない場所やタイミング』を考えて、今、自分にできる作業も見つけることができました

(作業の隙間を見つけて打った枝を安全な場所に集め、ひたすらチップパーの所に運ぶ！)少しはお役に立てた、のだといいのですが。。実は、今回初めて知った『林内作業車』という名前。林内の作業はこれ一台！的なネーミングに、今回の作業で見た用途以外にも色々なことができるんだろうな、と次の機会が楽しみになりました。蒸し暑い中の作業でしたが、みなさん、お疲れ様でした！



## 枝葉のチップ化作業 赤阪 進

先月に引き続き、炭焼き場から土場への路肩に積み上げている枝葉を、チップパーで処理する作業をしました。今回、作業の前にチップパーを移動しに行っている間に朝礼が終わってしまい、リクルートできなかったので常連の F,H,S,T+A の 5 名だけで始まりました。

前々日に H さんがチップパーのバッテリー充電や点検をしてくれていたため、すぐ快適に作業ができました。積み上がっていた枝葉を処理している間にも、近くでヒノキの切り出しをしている処からも運び込まれてきましたが、ほぼ処理が終わり 11 時半には「昼～」になりました。

午後からは F さんに代わり M さん、地域の草刈りが終わって参加してくれた K さんが加わり 6 名になりました。途中のヒノキ林傍に積み上がっていた枝葉、新人研修の除伐作業で出た枝葉を軽トラで集めてきては処理しました。出来たチップは反対側の法面に積み上がっています。チップの必要な方はお使いください。

自走式チップパーの移動はガソリン、チップパーの駆動は軽油です。仕組みとして、枝を突っ込むと大きな歯車が前に送り込み、直角方向に刃が付いた円盤が回っていて細断します。この円盤の軸に木の皮や蔓が巻き付きトラブルの原因になります。今回は快適に作動してくれましたが、終業点検で、やはり巻き付きがありました。先の曲がっている鉄板を持って行ったのが役立ちました。また、「騒音」と引き込まれる際の「枝の跳ね」が、この作業のリスク要因です。前回、はね飛ばされて行方不明になっていた H さんの眼鏡が 1 ヶ月ぶりに葉っぱの下から損傷なく見つかりました。





木材伐採のための道具 4 種「ノコギリ」「ナタ」「電動チェーンソー」「エンジン式チェーンソー」の使い方と、それぞれの道具の特性、伐採方法と、伐採後の処理方法を学びました。

刃物道具使用時の配慮事項は、木を切る際に、不注意で刃に硬い地面や石などを当てないことが大切！（当然ながら刃物による怪我などが第一配慮事項）

斜面での木の伐採時は死角も多く、協働者に声をかけ合いながら、安全に配慮して実施することが大切であること、作業の合間には今後の草刈りのため、絶滅危惧種（オオヒキヨモギ）を含む希少種（ササユリ 53 本など）を認識できるようになり、気を付けて草刈りする必要があることを体感しました。新発見は、木のガードレールが可動式で多少当たってずれても復元可能で里山整備に向いていることです（元々その狙いがあるものなのか！？）。今回、整備したあたりに花桟敷を作って、花が大きく見応えのあるネゴロザクラを楽しめるようにする計画とのこと。心はずむ花桟敷となるのが楽しみです♪

参加者：午前 10 名程度、午後 7 名程度

作業場所：手作りの森 車道沿いの法面



## 事務局から

## 「炭」

今年は炭の注文多くなっています。

神戸の萩原珈琲様から 1600 kg。高野山の奥の院様から 800 kg。四季の里様から 300 kg 程度。直接公園に買いに来てくださるお客様もいらっしゃるのでも年間 3000 kg ほどは焼く必要が出てきました。

今までは暑い夏の炭焼きはお休みしようと言っていたのですが、こうなるとそうもいきません。

一度に焼ける炭の量が 250 kg 程ですから年間 12 回焼いてやっと 3000 kg にとどきます。毎月 1 回焼く必要があるのも夏場もお休みしないで炭焼きは続きます。森の木を伐る炭材伐採、切った木を炭窯に入るサイズに揃える炭材づくり、そして 4 日間続く炭焼き、最後に炭出しと炭材詰め作業と出荷するまでには様々な作業を経る必要があります。

炭焼きグループのみなさんはがんばってくれてますが、倶楽部員のみなさんも時間を作って炭焼きの様々な工程のどこでもけっこうですからお手伝いください。

岡田 和久

